

【い】 リードタイムを知っていると・・・

近年、気象観測体制が充実して気象予報技術が発展しており、台風や豪雨の規模や経路がリアルタイムで、かなりの確実性で発信されています。それを活用して、避難するまでの必要な時間が算定できることにつながります。そうすると、時系列的に事前の対策を講じることができしますので、どのタイミングで、どんな行動を起こすべきか、マイ・タイムラインを作成することができます。これを見ながら、適切ところで、安全に避難行動を起こすことができることとなります。

【め】 盗人に隙はあれども守り手は隙がない、だから備える

自然災害は突発的に発生するので、その時を読んで対応することはできません。起きないように、起きて被害を最小にする手立てはあります。我々は、古来より体験や経験を生かし、科学知を基に知恵や工夫を重ねることで減災することを続けてきています。継続は力なりではありませんが、大事な経験は風化させることなく次世代へつなぎ育てていきたいものです。

【る】 類推なのか確率なのか、決め手はなに？

我々が毎日聞く降水確率ですが、これは雨の強さではありません。この降水確率は、予報区内を細かいブロックに分けて、そのブロックの湿度、温度、気圧、風力といった気象の要素を観測します。そして、その情報と過去の気象データを比較して、現在のパターンの類似度を抽出します。そのパターンが 100 回あったとして、雨が何回降ったのかを計算することで確率を答えにしています。もちろん数学的な理論もベースにしてコンピューターシミュレーションをしています。それにしても、降水確率は理論的な確率論というよりもデータに基づく類推というようにも思えてきますが・・・

【お】 おんぶにだっこではだめ、自主防災で情報共有を

災害が発生した時には、最も頼りになるのは顔が見える関係にある地域での防災活動です。その核となる自主防災組織ですが、その活動実態はどのようになっているのでしょうか。防災訓練、防災用品の備蓄、危険個所の点検、要支援者の把握、防災啓発活動、市町村との連携といった事前の役割があります。もちろん、発災・応急対応時も復旧・復興期にも地域での組織が求められる場はあります。大事なことは、実践的であることと、地域の方々が協力できるような環境作りです。多種多様なことに対応しようとするあまり、結局何もしないか、決まったことを消化することになっていないかです。まずは、地域の特性に合った課題を抽出して解決策を共有するというところから始めていくことが大事なことで、アンケートなどでの状況把握から始めることも大事なことです。地域の人が同じ目線で関心を持っていることが地域防災力の基本であると思います。